

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO.112

令和5年(2023年)

令和5年度(2023) 日本庭園学会
全国大会の実施要項

発行 日本庭園学会(会長 大澤 伸啓)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園技法材料科学研究室
TEL(03)-5477-2428(粟野 隆 理事)

令和5年度(2023) 日本庭園学会全国大会の実施要項

◆大会テーマ 「江戸の大名庭園～再生と未来～」

1. 大会概要

日程:

6月3日(土): 現地検討会、公開シンポジウム、
情報交換会

6月4日(日): 研究発表会、総会

会場: 東京都中央区環境情報センター研修室



【所在地】

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目1-1
東京スクエアガーデン6階 京橋環境ステーション内
電話: 03-6225-2433

【アクセス】

【地下鉄】東京メトロ銀座線「京橋駅」3番出口直結 /
東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」7番出口より徒歩2分 /
都営浅草線「宝町駅」A4番出口より徒歩2分
【JR】「東京駅」八重洲南口より徒歩6分 / 「有楽町駅」
京橋口より徒歩6分
【江戸バス】北循環⑤「八重洲通り西」下車徒歩6分

主催: 日本庭園学会 後援: 東京都中央区

2. 大会趣旨

テーマ: 「江戸の大名庭園～再生と未来～」

かつて、江戸の街には1,000か所以上の大名庭園があったといわれているが、明治維新により多くの大名庭園は放棄され破壊されてしまった。わずかに残った庭園は、公共の庭園やホテルなどの民間施設の一部として残されるのみであった。しかし、それらの庭園も関東大震災、太平洋戦争によって構造物は焼失し、残されていた江戸の大名庭園の面影を失ってしまった。

浜離宮恩賜庭園等の都立庭園は、平成16年(2004)より遺構調査や史資料調査を行ないながら江戸の大名庭園を復元し次の世代に引き継いでいくことを目的とした事業が進められている。失われた江戸の大名庭園を復元していくことは、江戸の文化を今に再現することであり、それは次世代に継承すべき文化遺産であるということでもある。

江戸の大名庭園の復元はどのような形でどのように進められているのか、そして、復元された江戸の大名庭園を、価値ある施設として現在の人々に活用してもらうためにどのような取り組みが考えられるのか、経緯も含めて議論していきたい。

そして、昨年度、築地市場跡に所在する江戸時代に名園と謳われた浴恩園の一部で予備調査が行われた。江戸大名庭園の実態を解明する上でも貴重な事例になると思われる。

3. 大会プログラム

< 第1日目 6月3日(土) >

- 10:00 集合 旧浜離宮恩賜庭園
大手門口より入園してすぐの
「三百年松」前(入園料各自負担)
- 10:00 ~ 11:45 現地検討会
協力: 東京都・東京都公園協会
- 11:45 ~ 12:10 質疑応答並びに築地市場跡
地など視察(浜離宮から移動
し、築地大橋から俯瞰)
- 12:10 ~ 昼食並びに移動(午後の会場
「東京都中央区環境情報セン
ター研修室」まで徒歩約30分)
- 13:30 ~ シンポジウム受付開始
(東京都中央区環境情報センター研修室)
ZOOMの開放
- 13:45 ~ 14:00 開会挨拶、シンポジウム主旨
説明、登壇者紹介
- 14:00 ~ 17:00 公開シンポジウム
講演(1) 岩淵令治氏
学習院女子大学教授(近世史)
- 講演(2) 加藤秀之氏
東京都埋蔵文化財センター
(考古学)
- 講演(3) 中山なつ希氏
東京都公園協会文化財庭園課長
(庭園の保存と活用)
- 講演(4) 吉田不曇氏
中央区副区長(都市計画・
まちづくり)
- 総合討論
座長: 菊池正芳氏
日本庭園学会全国大会運営
委員長、本会理事
- 17:00 ~ 17:15 シンポジウム総括・閉会挨拶
- 17:45 ~ 情報交換会
(土風炉 銀座一丁目店: 東京都中央区
銀座 1-10-6 銀座ファーストビル B2F)

< 第2日目 6月4日(日) >

- 09:30 ~ 受付開始
(中央区環境情報センター研修室)
- 09:50 ~ 開会挨拶、諸注意、
ZOOMの解放
- 10:00 ~ 10:20 研究発表1 今江秀史
(京都市元離宮二条城事務所)
- 10:20 ~ 10:40 研究発表2 熊倉早苗
(京都芸術大学)
- 10:40 ~ 11:00 研究発表3 大澤伸啓
(立正大学)
- 11:00 ~ 11:20 研究発表4 吉田雄哉
(東京農業大学大学院)ほか
- 11:20 ~ 11:40 研究発表5 竹内智子
(千葉大学大学院園芸学研究院)ほか
- 11:40 ~ 12:00 研究発表6 Tamir Erdembileg
(千葉大学大学院園芸学研究院)ほか
- 12:00 ~ 13:00 昼食休憩 / 理事会
- 13:00 ~ ZOOMの解放
- 13:00 ~ 14:00 総会
- 14:10 ~ 14:30 研究発表7 石綿優太郎
(千葉大学大学院園芸学研究院)ほか
- 14:30 ~ 14:50 研究発表8 鈴木 誠
(東京農業大学グリーンアカデミー)ほか
- 14:50 ~ 15:10 休憩
- 15:10 ~ 15:30 研究発表9 マイケル・シャピロ
(植彌加藤造園株式会社)ほか
- 15:30 ~ 15:50 研究発表10 張 平星
(東京農業大学)ほか
- 15:50 ~ 16:10 研究発表11 森 泰規
(株式会社博報堂)
- 16:10 ~ 16:30 閉会挨拶、閉会(会場復旧)

※現地検討会、研究発表会は事前申込者のみ
とします。

研究発表は発表15分・質疑5分です。

4. 大会参加の申込み

- (1) 1日目 現地検討会
 会員 1,000 円、学生会員 500 円、
 非会員 2,000 円、入園料は各自が当日負担
- (2) 1日目 公開シンポジウム
 現地参加：無料
 オンライン参加：無料
- (3) 2日目 研究発表会・総会
 現地参加：無料（中央区後援により無料）
 オンライン参加：会員 1,000 円、学生会員
 500 円、非会員 2,000 円（振込前納・シン
 ポジウム・発表論文資料集 PDF 資料代込み）
 となります。また、各自 ZOOM を利用で
 きるパソコン等の環境を整えて頂く必要が
 あるので宜しくお願いたします。
 シンポジウム・発表論文資料集は実費頒布です。
 （1・2 日目とも事前入金制、会員・非会
 員共 1,000 円）

現地検討会は事前申込制で参加費前納制（振込）
 です。また、新型コロナウイルス感染症対策の
 一環として、現地参加者は、先着での定員制（先着
 45 名）といたします。

大会参加の申込みは、事前に E メール、郵送、
 FAX のいずれかご都合のよい方法で右記「申込
 書」までお願いたします。

お申込みの際には、本紙末頁の「令和 5 年度
 （2023）日本庭園学会全国大会参加申込記入表」
 に次の①～⑤の項目をご記入ください。

- ①氏名、②会員・非会員の別、③参加プログラ
 ム（特に現地検討会に関しては 3 日を参加さ
 れず、4 日のみの参加を希望される場合はその
 旨も記載ください）、④現地参加とリモート参
 加の別（リモート参加の方で資料集の後日郵送
 を希望される場合は、住所も記載ください）、
 ⑤当日に連絡可能な携帯電話番号。
 提出は、FAX もしくは E メールでお願いします。

[申込み・参加費振込み期限]

令和 5 年（2023）5 月 23 日（火）必着
 （現地参加、リモート参加とも）

[申込み]

〒 156-8502
 東京都世田谷区桜丘 1 - 1 - 1
 東京農業大学地域環境科学部造園科学科
 庭園技法材料学研究室内
 日本庭園学会事務局
 電話 03 - 5477 - 2428
 FAX 03 - 5477 - 2625
 E メール teiengakkai@gmail.com

[問い合わせ先]

栗野 隆（全国大会運営委員会副委員長）
 E メール t3awano@nodai.ac.jp
 電話 03 - 5477 - 2428

[大会参加費振込先]

大会参加の方は以下の振込先に参加費をお振
 込みください。

<参加費振込先（郵便振替）>

- ・加入者名：日本庭園学会
- ・口座番号：00140-3-659842

【参加費詳細】

◆現地参加者

| 月日 | プログラム | 正会員 | 学生会員 | 非会員 | 備考 |
|--------|----------|---------|-------|---------|-------------|
| 6/3（土） | 現地検討会 | 1,000 円 | 500 円 | 2,000 円 | 別途入園料 |
| | 公開シンポジウム | | 無 料 | | |
| 6/4（日） | 研究発表会 | | 無 料 | | 資料代 1,000 円 |

左記の金額は事前入金制

6月3日（土）の情報交換会
 のみ、当日支払い制
 （一般 6,000 円程度、学
 生 3,000 円程度を予定）

◆オンライン参加者

| 月日 | プログラム | 正会員 | 学生会員 | 非会員 | 備考 |
|--------|----------|---------|-------|---------|-------------|
| 6/3（土） | 公開シンポジウム | | 無 料 | | 資料代 1,000 円 |
| 6/4（日） | 研究発表会 | 1,000 円 | 500 円 | 2,000 円 | |

左記の金額は事前入金制

令和5年度(2023) 日本庭園学会全国大会研究発表の概要

今江 秀史(京都市元離宮二条城事務所)
「近代京都の庭作りの黎明期における二条
離宮本丸庭園の位置付け」

【概要】

従来、近代京都における庭作りの先駆は、無隣庵(京都市左京区)とされてきた。その背景には、庭作りを主導した施主・山県有朋の知名度と、それに携わった七代目植治による後の活躍がある。無隣庵が竣工したとされる、明治30年より前の同27年から28年には、二条離宮の本丸に庭園が築かれていた。宮内公文書館が所蔵する工事録の翻刻に基づいて、二条離宮本丸庭園の成立の経緯を分析することにより、近代京都の庭造りの黎明期について再考する。

熊倉 早苗(京都芸術大学)
「現地調査からみた英国の日本庭園変遷の
過程と大名庭園の関係と特徴」

【概要】

英国の日本庭園の始まりには、他国とは異なり19世紀のプラントハンターの活躍や園芸学の成長が考えられる。また、開国後に多くのプラントハンターが訪れ、江戸の庭園様式や日本の珍種や有用な植物に注目し、英国で日本庭園が作庭された。筆者の2編の投稿論文の総論を含めた、Englandにおいて2019年の日本庭園の現地調査から日本庭園の事例をまとめ、英国の日本庭園と大名庭園の関係、また英国の現状と現地調査から見えてくる課題について考察する。

大澤 伸啓(立正大学)
「『ながめ』のクロボク石庭園について」

群馬県みどり市大間々町に所在する「ながめ」は、渡良瀬川を見下ろす崖上にある。はじまりは大正13年で、昭和初期には菊人形が有名になった。昭和12年には現在も建つ「ながめ余興場」が竣工し、公園も再整備された。クロボク石庭園は、最高所の平場(上段)とその北側一段下の平場(中段)にある。クロボク石を積み上げた景石が随所に置かれ、岩場の景観を形成して

いる。本発表は、この公園を紹介すると共に、大正末期～昭和初期の北関東におけるクロボク石庭園の流行について考察する。

吉田 雄哉(東京農業大学大学院)・
栗野 隆(東京農業大学)
「陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸の庭園に
おける流れの時期変遷」

【概要】

陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸(神奈川県大磯町)には海岸砂丘の斜面地形を生かした庭園があり、井筒、滝石組、流れといった水景施設が現存する。本研究では、保存修復に資する知見を提供することを目的に本庭園の流れの試掘調査を実施した。調査の結果、上流に確認されたセメントモルタルの防水層は下流にはなく、中流部に設置された沢飛石が防水層を壊しながら施工していたことが判明した。以上から本庭園の流れには水が流れていた時期と枯流れの時期が存在していたと指摘できる。

竹内 智子(千葉大学大学院園芸学研究院)・
樋渡 達也(武蔵野文化協会)
「臨海部の潮入りの庭園『海荘』にみる
都市政策と庭園の役割」

【概要】

江戸時代後期に作庭され、東京臨海部にあった潮入りの庭園「海荘(はまやしき)」は、松平定信(1759～1829)が、南湖公園や浴恩園(築地市場跡地)等の後、最後に作庭した庭園である。本研究は、海荘が松平定信の庭園観の集大成であるという仮説に基づき、当時の社会的背景、東京湾の入口という立地、塩田や広域的な借景などの特色から、国防、産業政策など彼が意図していた都市における庭園の役割について考察する。

Tamir Erdembileg・
竹内 智子(千葉大学大学院園芸学研究院)
「旧芝離宮恩賜庭園の3Dモデルの作成と
その活用可能性」

【概要】

周辺で都市再開発が進行中である旧芝離宮恩賜庭園を対象に、3Dモデリングソフト及び仮想空間を作るプラットフォームを用いて、庭園の

3Dモデルを作成した。3Dモデルについて、現地調査も含めた作成の方法や、樹木や水面の表現方法、既存の都市モデルとの関係について紹介する。また、モデル作成により、庭園の歴史や文化を踏まえたリアルではできない過去の体験や季節変化の体験など、その活用可能性について提案する。

石綿優太郎・

竹内 智子 (千葉大学大学院園芸学研究院)
「周辺開発に伴う高層から庭園を見下ろす
景観－旧芝離宮恩賜庭園を例に－」

【概要】

旧芝離宮恩賜庭園は、江戸時代から現在まで、時代に合わせて様々な利用がなされてきた大名庭園である。高度成長期以降、周辺には多くの高層ビルや交通施設が建設され、現在も再開発事業が進んでいる。本研究は、周辺開発により周囲から庭園を見下ろせる場所が多くできたことに着目し、庭園利用と開発の歴史の変遷を整理し、周辺を通行する人々が上から見下ろす庭園の景観をどう認識しているのか、アンケート調査により把握した。

鈴木 誠 (東京農業大学グリーンアカデミー)
・齋藤 豊子 (環境美学舎)

「小石川後樂園大泉水における水練について」

【概要】

本研究は、小石川後樂園の大泉水に着目し、往時の利用形態について考察した。水戸藩小石川藩邸では初代徳川頼房時代から庭づくりが始まり、2代光圀 (1628-1701) が完成させた。大泉水は3代綱條時代の元禄15年 (1702) 桂昌院訪問時や、翌年の大地震後の改修等何度かの改変があったが、水戸には水府流泳法が今に伝わり水戸藩主は初代より代々水練を奨励してきた。大泉水の史料、水深、池畔構造等から藩土の水練が行われたかを考察した。

マイケル・シャピロ (植彌加藤造園株式会社)
・小椋菜美 (京都大学)・加藤友規 (京都芸術大学)
「七代目小川治兵衛 (植治) を取材した二人の
アメリカ人女性作家：エリザ・シドモアと
ロレイン・カックの著作を通して植治の
作庭観 (または庭園観) を探る」

【概要】

昨年の全国大会では、アメリカ人女性作家エリザ・シドモア (Eliza R. Scidmore) が明治43 (1910) 年に七代目小川治兵衛 (植治) に密着取材し、それをもとに“The Famous Gardens of Kyoto” (京都の名園) という記事を執筆したことを紹介した。本発表では、さらにシドモアの記事を昭和6 (1931) 年に植治を取材したロレイン・カック (Lorraine Kuck) というもう一人のアメリカ人女性作家の著作と比較する。特に2人の取材が20年以上離れて行われていることに着目し、植治が自分が作庭した庭園をどのように認識していたのかについて考察したい。

張 平星・新井 大樹 (東京農業大学)
「兼六園の調査結果からみる旧加賀藩の
造園石材の利用」

【概要】

旧加賀藩の歴代藩主が長い年月をかけて作り上げた兼六園では、飛石・延段・景石・滝石組・灯笼・手水鉢・石橋・石塔に庶民の採取や利用が禁止された「御止め石」の戸室石をはじめ、多様な石材が使われている。本発表は、2021年に実施した兼六園の石材調査から、赤戸室石と青戸室石 (角閃石安山岩)、坪野石 (玄武岩)、滝石 (花崗片麻岩)、滝坂石 (岩滓凝灰岩)、笏谷石 (火山礫凝灰岩)、金屋石 (緑色凝灰岩)、早月石 (花崗岩) など、旧加賀藩の造園石材の種類・利用方法・時代変遷を読み取りたい。

森 泰規 (株式会社博報堂)

「文化資本論で読み解く『園芸・ガーデニング・
家庭菜園』の趣味経験の推移」

【概要】

1992年より隔年での調査を開始した、博報堂独自調査『生活定点』では、「園芸・ガーデニング・家庭菜園」の趣味は調査開始時1992年に2割近かったが、2022年実査時点では1割程度まで減少している。この背景について、文化資本論 (ブルデュー) の枠組みをもとに検討を行う。

FAX : 03-5477-2625 Mail : teiengakkai@gmail.com

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学造園科学科庭園技法材料学研究室 日本庭園学会事務局

令和5年度(2023)日本庭園学会全国大会 参加申込記入表

| 氏名 | | | | |
|--------------------------|---|--|--------------------------------|----------------------------------|
| メールアドレス | | | | |
| 携帯電話番号 | | | | |
| 会員区分 (該当するものに☑) | <input type="checkbox"/> 正会員 <input type="checkbox"/> 学生会員 <input type="checkbox"/> 非会員 | | | |
| 大会参加区分 下記該当するものに☑をしてください | | | | |
| 月日 | プログラム | 正会員 | 学生会員 | 非会員 |
| 6/3 (土) | 現地検討会(現地のみ) | <input type="checkbox"/> 1,000 円 | <input type="checkbox"/> 500 円 | <input type="checkbox"/> 2,000 円 |
| | 公開シンポジウム(現地) | <input type="checkbox"/> 無料 | | |
| | 公開シンポジウム(オンライン) | <input type="checkbox"/> 無料 | | |
| | 情報交換会 | <input type="checkbox"/> 参加 費用は当日徴収します | | |
| 6/4 (日) | 研究発表会(現地) | <input type="checkbox"/> 無料 | | |
| | 研究発表会(オンライン) | <input type="checkbox"/> 1,000 円 | <input type="checkbox"/> 500 円 | <input type="checkbox"/> 2,000 円 |
| シンポジウム・発表論文資料集 | | <input type="checkbox"/> 購入 1,000 円 | | |
| 合計金額 | | 円 | | |
| *計算間違いのないようにご記入ください | | | | |

※シンポジウム・発表論文資料集は、5月31日(水)を以て、参加者全員にPDFデータを配信します。現地参加者には大会当日に冊子をお渡しし、オンライン参加者には大会後日に冊子を郵送します。

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしく
願います。また、過年度滞納の方は併せて納入のほ
どよろしく願います。

協力者：森本・細井(植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会 広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都芸術大学日本庭園研究センター 気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342